



TOKYO NEWS FLASH

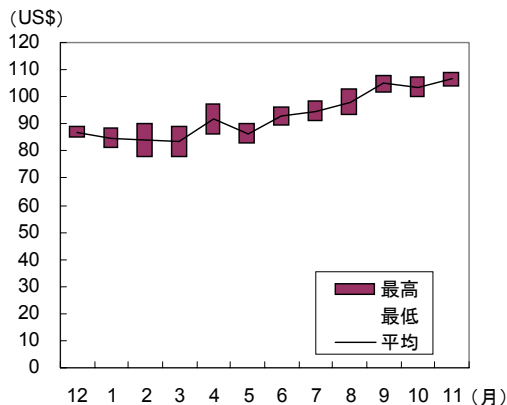
米国食肉輸出連合会 (USMEF)

Volume 249 November 28, 2003

米国食肉市場ニュース

～ 牛肉 ～

去勢牛の 100 ポンド (約 45kg) 当たりの価格
(オクラホマシティー・体重 600～700 ポンド)



資料 : Cattle-Glenn Grimes & Ron Plain

牛肉市況 (11月17～21日)

- **週間と畜頭数 :**
60万7,000頭。
- **牛肉の小売価格動向 (10月) :**
前年比21%増、前月比約6%増。
- **出荷マージンの動向 :**
小売価格の増加分はすべて、生産者価格の増加による。今年1～10月の総マージンは前年比微減。10月単月では同約5%減。
- **肥育牛の取引価格 (100ポンド [約45kg] 当たり) :**
今週は軟調。主要5地域の平均価格 (生体レベル) は前週比5.30ドル安の98.00ドル。中西部の直接取引では、98.00～100.00ドル (平均99.00ドル)、ハイプレーンズでは96.00～100.80ドル (平均98.00ドル)。今後数週間はさらに安値が進むが、年内は価格自体は高レベルを維持すると見られる。10月単月の取引価格は前年比51%高。今年1～10月は同30%以上の高値。

オクラホマシティーにおける去勢素牛の体重別、
100ポンド (約45kg) 当たりの価格 (US\$)

体重 (ポンド)	11月17～21日
400～500	109.00～120.00
500～600	97.25～115.00
600～700*	108.50～110.50
700～800	100.00～106.00
800～900	97.00～106.00

*イヤリングビーフ (若齢牛)

(Cattle-Glenn Grimes & Ron Plain, 11/21/2003)

主要12州¹のフィードロット²内頭数、
前年比3%増 (2003年11月1日現在)

	2003年 ³	対前年
10月1日現在フィードロット内頭数 ⁴	9,948	98%
10月導入頭数	2,671	117%
10月出荷頭数	1,801	94%
10月のその他の消失 ⁵	100	122%
11月1日現在フィードロット内頭数 ⁴	10,718	103%

- 注 : 1. アリゾナ、カリフォルニア、コロラド、アイダホ、アイオワ、カンザス、ネブラスカ、ニューメキシコ、オクラホマ、サウスダコタ、テキサス、ワシントン。
2. 収容頭数1000頭以上。
3. 単位 : 1000頭。
4. 穀類あるいは他の濃縮飼料を主食とし、セレクト以上として肥育される、と畜用の牛、子牛。
5. 死亡、放牧場への移動、他のフィードロットへの移動など。
(USDA's Cattle on Feed, 11/21/2003)

～ 豚肉 ～

豚肉市況 (11月17～21日)

- **週間と畜頭数 :**
214万1,000頭 (前週比4.4%増) で、引き続き予測を上回る水準で推移。
- **豚肉の小売価格 :**
10月の小売価格は、例年通り前月比約1%減だが、前年を4%弱上回った。今年1～10月では依然として前年を0.7%割り込んでいる。
- **肉豚の現金取引価格 (100ポンド [約45kg] 当たり) :**
と畜頭数の増加にもかかわらず堅調で、前週比1.00ドル高で推移。枝肉価格は同0.12～2.76ドル高。

●肉豚の価格動向：

豚肉生産高が前年比3～4%増となった10月は、前年比約22%増。今年1～10月では同約13%増で、これは出荷マージンの圧縮が主因。

●豚肉の出荷マージンの動向：

主として加工—小売間のマージンが減少し、今年1～10月では前年比5.2%減。加工—小売間のマージンは、10月単月で前年比微減、今年1～10月で同5.5%減。

主要市場における100ポンド（約45kg）
当たりの最高価格（US\$）

	11月21日
ペオリア	32.00
セントポール	34.50
スーフォールズ	36.00
ミズーリ中央部	31.00

185ポンド物（約83.5kg）の枝肉平均価格（US\$）

	11月21日
東部トウモロコシ地帯	45.68
西部トウモロコシ地帯	47.37
アイオワ・ミネソタ	47.22
全国	46.60

(Hogs—Glenn Grimes & Ron Plain, 11/21/2003)

業界ニュース

米国農務省 BSE 汚染地域の見直しに伴い カナダ産牛等の再輸入提案

USDAは11月4日にBSE汚染地区のリスク度見直しからカナダ産牛の輸入再開を提案し、来年1月5日まで意見公募を受け付けることとなった。これに対し業界では一部に再開が3月くらいになるとの見方をしているところもある。しかし、最終公告の時期は寄せられる意見の内容に左右されるため、現時点で最終判断するには早急であろう。

11月4日公表のUSDAの規定案は、生後30カ月未満のカナダ産牛の米国への輸入再開を全面的に認めるもの。また、BSE感染の危険性がある程度低い反芻動物の生体及びこれを原料とする製品を輸入する際、米国へのBSE流入の危険性が最小限に抑えられる地域を識別する新たな地域区分を設けている。現時点ではカナダが唯一の適格国だが、他国からの適格申請も認める。

USDAによると、従来の規制ではBSEに関する地域区分は、①BSE汚染なし、②BSE感染事例あり、③BSEの危険性が非常に高い、の3つで、①の地域からの輸入は通常、BSE規制の対象とはならないが、②と③の地域からの輸入には同じ規制が適用されるという。

(Cattle Buyers Weekly, 11/10/2003)

食品安全ニュース

FDA、クローン家畜が原料の食品は安全と示唆

食品医薬品局（FDA）は、クローン家畜を原料とする食品の安全性に関して科学的証拠を検証中だが、その一環としてリスク・アセスメントの概要の草案を公表、11月4日に開かれるFDA獣医学諮問委員会（VMAC）の会合で公開討議を行う。このリスク・アセスメントでは、クローン作成の過程で家畜に与える危険性も検証している。

今回の草案は、全米科学アカデミー（NAS）の研究結果に基づいている。それによると、入手可能なすべての証拠を踏まえると、クローン家畜およびその子孫を原料とする食品は、非クローンのものと同様、摂取しても安全なようだとしている。また、これらの科学的所見によると、健康な成体クローンを非クローンのものと識別することはほぼ不可能だという。データのほとんどは牛、豚、ヤギのクローンを研究対象としている。FDAはアセスメント作成に使用したデータを草案の一部として後日公表する。家畜クローン作成のリスク・アセスメントは、クローン家畜を原料とする食品の安全性と、クローン作成の過程で家畜に与える危険性を評価するため、FDAが計画的に行ってきた研究プロセスの一環。

(NAMP Newsfax, 11/05/2003)

米国トレンド・新製品ニュース

牛肉価格、米国全土で高騰

牛肉価格は全米で急騰し、昨年比45%高で過去最高を記録した。

価格の安い胃や尾から、極上の霜降り熟成サーロイン（ニューヨークの精肉店では現在1ポンド当たり42.98ドル）に至るまで、あらゆる牛肉製品の価格が急騰しており、前年に比べて2倍近くになっているものもある。

価格高騰の原因は、需要に供給が追いつかないこと。カナダ産牛の輸入が禁止されているため、5億ポンド（約22万6,800トン）もの牛肉が米国市場に流通していない計算になる。国内の牛の頭数も1996年から740万頭減少している。タンパク質を重視するアトキンス・ダイエットの流行などにより、牛肉志向が高まる一方、去勢牛がやせて肉が減ったことも、牛肉不足に拍車をかけている。

連邦政府の農業エコノミストによると、生産者は現在の高値の恩恵にあずかろうと、通常より

早く牛をと畜業者に持ち込むことが多いという。
農務省の家畜アナリストによると、10月25日に
市場に持ち込まれた経産牛の平均重量は、昨年
比28ポンド（約12.7kg）減だったという。

(nydailynews.com, 11/05/2003)

(参考)

米国のレッドミート生産量¹（連邦検査を受けたもの）

（100万ポンド）

種別	2002	2003	2003	2003年10月(%)		1～10月累計 ²		
	10月	9月	10月	対2002年 10月	対2003年 9月	2002年	2003年	対2002年 (%)
牛肉	2,474	2,282	2,176	88%	95%	22,505	22,179	99%
子牛肉	18.0	14.7	15.7	87%	107%	155.8	152.4	98%
豚肉	1,810	1,645	1,891	104%	115%	16,052	16,153	101%
ラム/マトン	18.8	16.1	17.2	91%	107%	173.8	158.0	91%
レッドミート合計	4,321	3,958	4,100	95%	104%	38,886	38,643	99%

資料： USDA's Livestock Slaughter, 11/21/2003

注： 1.パッカーの枝肉重量に基づく。農場でのと畜は除く。

2. 切り上げ、切り捨てなしのデータに基づく累計および比率。